



イメージを言葉にする

大脳のはたらきと表現

●イメージから言葉へ

「『学校』について書きなさい。」と言われたら、どのように考えますか。まずは、自分にとって「学校」とはどのようなところかを考えるでしょう。「学校」にまつわるさまざまな場面が、映像として浮かんでくるでしょう。こうして浮かんできた「イメージ」から書きたいものを決めて、それを言葉にしようとするのではないのでしょうか。

●イメージと大脳のはたらき

大脳は、右脳うのうと左脳さのうとに分かれ、神経でつながっています。イメージを思い起こし、それを言葉にする過程では、下の図のように右脳と左脳が順番にはたらくきます。

●イメージを言葉にするための工夫

イメージの全ての要素を言葉にすることは難しいことです。右脳がイメージを保持できるのはとても短い時間だからです。しかし、イメージが消えてしまう前に左脳で言葉にすれば、長くとどめておくことができます。そのためには、イメージが浮かんだときに、あとからでも左脳がイメージを思い出せ

20

15

10

5

左脳のはたらきと特徴

- ・イメージを言葉などに変換する。
- ・イメージにあてはまる言葉を見つけ出す。
- ・言葉にすることで、長く保持できる。

右脳のはたらきと特徴

- ・イメージを思い起こす。
- ・立体的な物も思い起こすことができる。
- ・イメージを保持できる時間は短い。

右脳のイメージを左脳で言葉にする。

毎日の勉強
部活動の練習
友達との会話



るような工夫が必要です。
・浮かんだイメージをとりあえず図示する。
・浮かんだイメージを短い単語でどんどんメモする。